

岡野 孝 則

(民主クラブ)

農地・水・環境保全向上対策

問 本事業の最終年を迎え、過去における効果と課題は。

答 効果は、農業農村の多面的機能に対する認識が深まりコミユニティの活性化が図られた。課題は、用排水路等の老朽対策。

問 本年度で終了する本対策の共同活動支援交付金制度の事業継続が必要と思うが市の見解は。

答 本交付金は地域づくりに重要な施策と認識。次年度以降も継続のため北海道市長会などを通じ、国などに要請をしている。



共同作業風景

問 本年度開始された長寿命化対策の支援制度で、地元負担、活動組織の再編など課題があると聞いているがその対策は。

答 関係団体と連携し保全会とも協議していきたい。

ますます重要な農業担い手

問 過去5年間の新規就農者数と支援対策は。

答 新規参入者6名、後継者35名。支援策は、北海道農業担い手育成センターの就農支援資金を活用。本市独自対策は、研修生住宅2戸、研修圃場を設置。

問 就農者に対し、市として融資制度確立などが必要と思うが。

答 経営者も含め全般的に網羅し対象となるか、どの様な対策が必要か融資制度も含め検討。

問 新規就農者の相談事は、農林課を中心とし各部署と連携し対応している。今後各部に精通した相談員の配置が望ましいが。

答 今後も関係機関などと情報共有や協力体制を強化。相談員の配置は考えていないが、職員の資質の向上に努力していく。◇他に担い手として、第3者継承、経営能力向上などを質問。

萩原 弘之

(民主クラブ)

富良野農業及び農村基本計画

問 農地小規模改良事業支援は。

答 平成22年湿害、集中豪雨による被害により農家経営の安定向上のため、高温多雨等被害排水対策支援事業を実施した。今後も農業の基礎となる農地の効率的な経営に向け国営・道営の農業農村整備事業に取り組み関係団体とも連携を取りながら情報共有と対応を協議していく。



降雨による玉葱の被害状況

問 農業者の環境を維持する為の商店、給油所の支援は。

答 現在は、民間スーパード力

る共同購入の取り組みがあり、移動手段のある方は市街地での買い物をしている。東山地域は、富良野市場を中心とする協議会が現状の把握と意見交換をしているが、その進展は難しい。麓郷地域は、富良野麓郷地域協議会が麓郷周辺地域のお年寄りや買い物弱者の送迎支援を行っている。また給油所については省令により危険物の流出防止のため処置を行うことになった。消防本部では昨年より流出防止の啓発をしている。タンクの所有事業者の対策推進を望む。

問 富良野農産物のブランド力向上の情報発信宣伝について。

答 農産物のブランド価値の施策目標を定め、ブランド力向上の新たな取り組みを支援する他安心安全な農産物を消費地へ送る産地体制の確立促進するなど、足腰の強い産地づくり推進をしている。今後もGAP制度、エコファーマーの推進に取り組み、富良野農産物の良さを広く周知する為ホームページ・広報媒体を効率的に活用する他、農業関係者と連絡を深め、更なるブランド力の向上に取り組み。